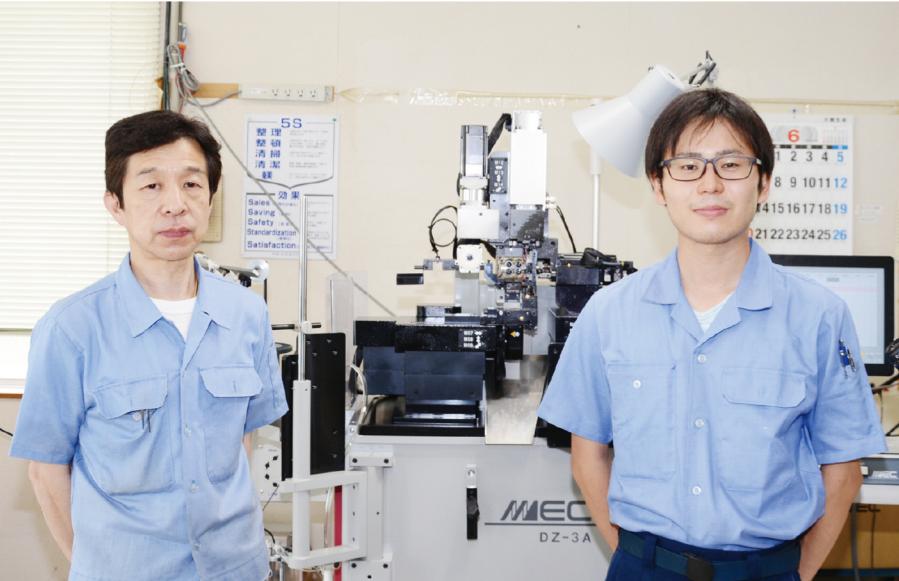


技術継承で指導の日々



板垣さん(左)と伊藤さん

中央ばね工業株(千葉県柏市、
井上英博社長)の板垣一義さん
(技術課課長)は製造現場のベ
テランとして中心的存在である
と同時に新製品開発を得意と
し、井上広次常務から「創意工
夫にあふれ企業秘密なノウハウ
を生み出してくれる社の財産」
と評価されている。現在は今年
入社の新人、伊藤聖樹さんに技
術継承するべく指導の日々を送
っている。

現場 直線!

板垣一義さんと伊藤聖樹さん

中央ばね工業 創意工夫で新製品を開発

板垣さんは「コツコツ技術を磨けば、私のアイデアは誰でも思いつけるし、加工は誰でも出来る。だから教わって訓練してくれば習得できるはず」と話している。

板垣さんは「コツコツ技術を磨けば、私のアイデアは誰でも思いつけるし、加工は誰でも出来る。だから教わって訓練してくれば習得できるはず」と話している。

のばね企業に就職。そこで実力から業界内でも名が知れて、井上常務の耳にも入っていた。同社に入社後はボールペンの先端ボール部分を内部から抑える線径約0・1ミリ以下未満のステンレス製スプリング開発を手がける等で活躍。新製品開発の中核的人物であり加工に必要なオリジナル治具を考案・開発も行っている。同社ユーチャーとなるメーカーとの開発の打ち合わせにおいては、井上常務とともに担当して技術的に難しい面は一任され、メーカーも意図しない加工法を考え出す事もある。

板垣さんは現在60代で後進の育成が課題であり、「ポスト板垣」を育てるべく社内には40代・30代の中堅も多数いるが、井上常務は今後の「伸びしろ」を考え素質を見込んで20代の伊藤さんを採用。板垣さんは井上常務と伊藤さんをメインに同時に並んで技術を伝え、そこから現場全員で技術の共有化を目指している。